

# 有限会社 馬場牧場

ば ば こうせい  
馬場 幸成さん (63)  
ば ば だいすけ  
馬場 大祐さん (33)



日本一の和牛と称される宮崎牛。  
肉牛枝肉の部でその頂点に立った  
馬場さん親子は、牛への愛情と情熱を  
胸に、今日も真摯に牛に向き合う。

10月25日に開催された和牛の県肉畜共進会。日本一の「宮崎牛」のさらなる頂点を決めるこの大会は、全国各地の大会の中でも特に注目を集める。畜産農家にとって、出品することさえ至難とされる大会で、その頂点に輝いたのが、馬場幸成さん、大祐さん親子が経営する有限会社馬場牧場。南西方で3世代にわたり畜産業を営んでいる。

「結果を聞いたときは、本当に信じられず、何度も結果を聞き直した。支えてくれた、たくさんの人たちに感謝したい」。今も当時の感動と感謝の思いが溢れる。馬場牧場を設立して25年。経営が苦しいときもあったが、経営形態や牛への向き合い方を模索しながら、試行錯誤を重ねてきた。

若いころは短気な性格で、人と衝突することが多かった幸成さん。「牛のことにかけては妥協を許さない人」。その性格を理解し支えてきた妻りつ子さんの存在は大きい。一緒に作業を行う大祐さんも家業を手伝いたいと19歳のときに帰郷。馬場牧場を支えている。14年立つた今、昔より自信や余裕ができて、牛に向かう姿勢が変わったと、大祐さんの成長を話す両親の表情には笑みが絶えない。



写真一段目) 10月25日、株式会社マヤチク高崎工場で開催された第9回肉畜共進会の様子。二段目) 大祐さんが管理する肥育用の牛舎。一頭一頭の体調管理に特に力を入れる。三段目) 仕事がひと段落すると、休憩室で団らん。室内には馬場さん親子の笑い声が響きわたる

# 小林人

Vol.64